
ココニアルモノ

離宮 愛琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ココニアルモノ

【Nコード】

N1963C

【作者名】

離宮 愛琉

【あらすじ】

嫌い。何もかもが。でも、自分が一番嫌い。だけど、死ぬのは怖くて……。大切なものが見えなかったんだ。

今日も空が綺麗だ。

窓の外を見て、ぼうつとしている私は
なんとなく

青い空の見える日は好きだった。

そう、好きだった

今は綺麗な空をみていると

どうしても自分の汚さが見えてしまつて
無性に自分が嫌になる。

大好きだった歌だつて

いつの間にか

忘れてしまった。

そんな日々の中で

そつとこの世界から

いなくなりたいと思う事がある。

誰にも愛されてないのなら

誰からも必要とされていないのなら

自分の存在する意味が分からないくらいなのなら

今まで見ていた窓を開けて

身を乗り出す

その瞬間

一つの真実が頭の中を駆け巡る

『自分は飛ぶことができない』

分かりきっていたことなのに
酷く怖くなる

夢を見るのは容易たやすい事。

でも

現実を見る事はとても残酷だ

涙がこみ上げてくる

死ぬ事が怖い

本当は

誰かから愛されたい

自分は求められて生きていると

自信を持って言いたい

きつかけは、ほんのささいな事だった。

私の大好きな友達が、私の事を大嫌いになった。

理由なんて、もう覚えていない…

その日から、私は皆から遠のいて生活することになった。

いや、「入れない」って言う方が正しいのかな？

とにかく、人と接しない日々が続いた。

そして、私は心を失った。

ふと見ると、私が飛ぼうといていた窓の下では猫が喧嘩をしていた。
喧嘩…と言うより…

ある一匹が攻撃されているみたい…

……私に似てる……

私は家を出て、その猫たちに近づいた。

一歩、歩み寄る度に猫たちは私から離れていく
その一匹を残して。

痺れが切れたのか、ある一瞬を境に猫たちは逃げ出していった。

私の足元には傷ついて動けないでいる猫が一匹。

「…大丈夫？」

私は答えなど帰ってこないと知りつつも話しかけてみる。

「にゃー…」

私は地べたに腰を下ろし、少し怯えている猫に手を差し伸べる。

「大丈夫。私も君と一緒にだよ。」

自分に呆れつつも、自然と言葉が出てくる。

一緒に、また涙も出てきた。

「私…さ、何であんなに嫌われちゃったんだっけ…？」

私は皆が好きだったのに…

本当に…何でだろう？

「にゃあ…」

猫さんは差し伸べた手に手を乗せてくれた。

温かい…懐かしい愛しさ。

「私ね…ただ、皆と一緒に楽しくいられば良かったんだ…それすらも叶わないなんてね、馬鹿だよね……」

止めたくても止められない。

言葉と一緒に涙の量も増えていった。

胸が痛い…

締め付けられるような感情の波。

「もう…辛いんだよお……！！」

どうしようもない。

砂時計みたいに

一度ひっくり返ったら

落ちるしかないんだ。

「ボクと君は似ているね。愛されたいけど、きつと……」
近くから声がした。

男の子みたいな声。

その声がした方向には猫しかいない……

……空耳？

「ねえ、君の名前は？」

「え……？な……なっ！」

やっぱり猫が喋ってる……！？

「ななっって言っただね？」

ちっ違う！ってか何で喋ってるの！？

「なな。ボクはね、ボクが皆から嫌われてしまった訳を知っているんだ。」

「……え？」

「ボクはね……誰よりもボクの事を愛してないんだよ。」
……やっぱり似てる……私と。

「ななもきつと、そうなんだろう？」

「……うん。」

「でもさ、本当に嫌いなものを周りの人が好きだっって言っているのも
そう思えないだろう？」

「……うん。」

ああ……本当に、頭がおかしくなっちゃったのかなあ？

猫となんの躊躇いもなく会話してるなんて……

「なな、君は実は誰からも嫌われてなんかいないんじゃないのかい
？」

「え……？」

「信じる事は何よりも大切なことだよ。愛されたいのなら、愛さな
いと。君は愛されているから、今、ここから戻る事ができるよ……
……」

気が付いたら私は病院ベッドの中にいた。

私の周りではたくさんのクラスメートが泣いていた。

…そっか…私…

「あ！気がついた！？よか…本当に…」

周りの皆は私が目が覚めたの気づいて、

私のために泣いてくれる…

そうだね。きつと

「ねえ、聞いて。私、夢見てたの。私、皆のお陰で帰って来れたんだよ？…皆、大好き。ありがとう…」

辛い事で埋もれてる世界。

そんな世界だから

幸せの鍵も

埋められちゃう事がある

でもね、

信じていれば

きつと目の前にはたくさんの幸せ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1963c/>

ココニアルモノ

2011年1月16日05時30分発行